第１回茨城沿岸津波浸水想定検討委員会　主な意見と対応

日時：平成 17 年 12 月 27 日（火）
13：30～15：40
場所：都道府県会館　401 号会議室

番号	主な意見	対　　応
1	○チリ地震津波痕跡の資料および表示 チリ地震津波については、被害実態（写真や体験談など）を調査すべき。また、遡上高の被害記録を調べてシミュレーション結果と比較する。	本調査では、チリ地震津波の既存資料について整理を行う。 津波数値計算結果による浸水範囲と、チリ地震津波の浸水範囲の記録とを対比し、浸水想定図での表記を検討する。
2	○津波の用語 「津波高」と「遡上高」の２つの高さを使用するときは注意・説明を入れる。	浸水想定図や報告書には用語の定義および説明図を入れる。
3	○想定地震 茨城県沖以外の想定地震の中から、２つの地震を選択する。 延宝地震は被害があったので想定地震津波とすべき。また、明治三陸と宮城県沖のどちらを想定するかは、委員会での議論をもとに県で協議した結果を各委員にフィードバックする。 近地（茨城県沖）の津波の到達時間を整理しておく。	事務局（茨城県）案を第２回委員会に提案する。 ○津波浸水想定を行う津波 ・延宝房総沖地震津波 ・明治三陸タイプ地震津波 ○到達時間を整理する津波 ・福島県沖・茨城県沖のプレート間地震津波
4	○河川遡上 ・河川遡上シミュレーションは流量を考慮すべきである。 ・河川遡上については、ソリトン分裂、段波など解析が難しい点も多い。今回業務の結果を活用し、各河川の管理者による詳細な検討が必要である。 ※河川遡上の検討には縦横断図や流量	河川遡上については、県管理河川のうちから一定の基準で対象河川を選定して、河川流量を考慮した予測を実施する。 その他の県管理河川では、河川流量は考慮せず、朔望平均満潮位まで水位で満たされているという想定で予測する。 直轄河川については、近い将来に専門的

	観測値が必要だが、県管理河川ではあまり整備されていない。 ・利根川は茨城県と千葉県の境界にあるので想定上差異のないよう調整する。	な検討がなされる模様であるので、河川管理者が詳細な予測を実施できるように、本調査の基礎資料や予測結果のデータベースを整備しておく。また、本調査では河川流量を考慮しない方法で予測を行う。 利根大堰、常陸川水門は運用状況を確認して条件を設定する。
5	○チリ地震津波のような長周期振動に対する港湾の固有振動 港湾の形状から特に鹿島港（チリ地震当時は建設されていなかった）について検討する必要があるので、固有振動を調べておく。	今後の課題として記述し、各管理者での検討ができるように本調査の成果・データを整理しておく。なお、別に当時の検潮記録等の情報を港湾管理者と交換し、情報を整理しておく。
6	○霞ヶ浦の塩水遡上 今後、津波の遡上の状況が分かった時点で、利根下流河川事務所、霞ヶ浦河川事務所、水資源機構と検討して行くべき。	本調査の範囲とはしない。 今後の課題として記述し、各管理者での検討ができるように本調査の成果・データを整理しておく。
7	○関係者のオブザーバーとしての参加 第3、4回の委員会には、観光、利用者、鉄道関係などをオブザーバーとして入れることを検討する。	今回の委員会では、浸水想定図を作成することを主題としており、地域を代表して市町村が参加しているので、当該関係者には参加要請しない。 なお、調査完了後には当該関係者に対して説明会を開き、協力関係を構築する。